

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	教職員のキャリアアップのための学校教育における現代的課題に対応した研修カリキュラムの開発
プログラムの特徴	<p>本プログラムは、さいたま市の学校教育の一層の充実のため、非正規採用教職員を中心に、教職員の資質能力の向上を図るとともに、非正規採用教職員が自信を失うことなく正規採用教員へと向かうことができるよう支援するため、埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターが主体となり、休日の研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を実施するものである。</p> <p><特徴></p> <ol style="list-style-type: none">① 非正規採用教職員を中心に、直接児童生徒を指導・支援する全教職員を対象とする。② 発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実を目指し、教員、相談員、支援員等、多種多様な教職員が合同で学び合う研修カリキュラムを実施する。③ 教職員の自主的な研修の場の拡大・充実を図るため、休日に研修会を実施する。

平成26年3月

埼玉大学教育学部・さいたま市教育委員会

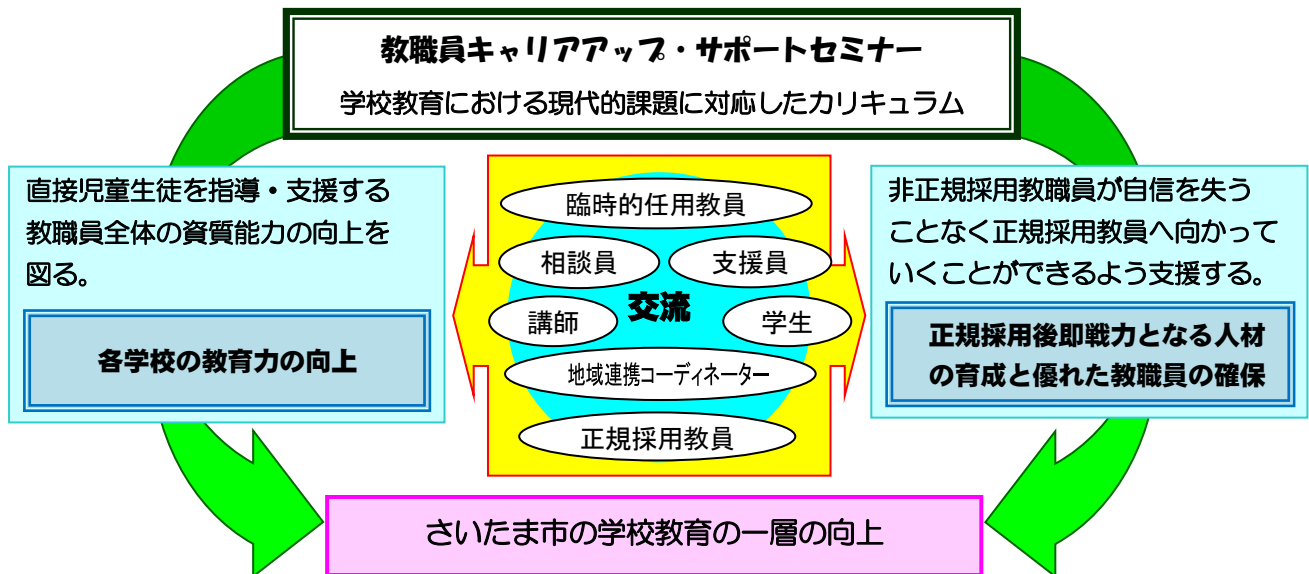
プログラムの全概要

本プログラムは、埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターが主体となり、研修の機会が十分に与えられていない非正規採用教職員（臨時的任用教員、講師、相談員、支援員を指す。）を中心に、さいたま市の教職員を対象とする研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を実施するものである。

【プログラムによる効果①】

さいたま市の学校教育の一層の向上

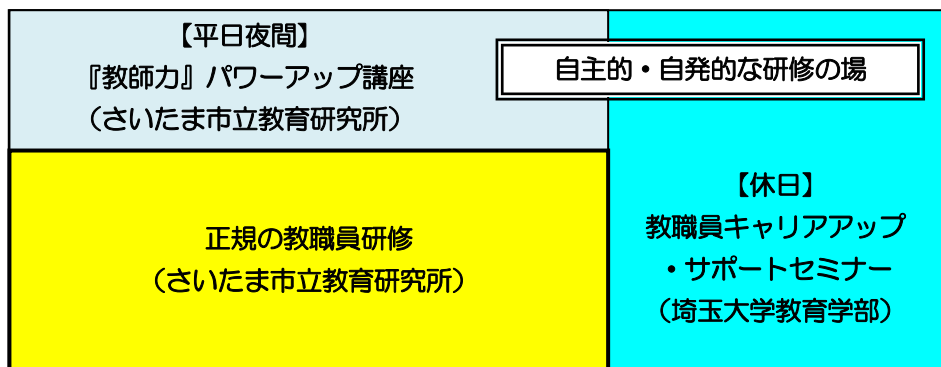
臨床心理士である附属教育実践総合センターの教員を中心に、発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実など、学校教育における現代的課題に対応したカリキュラムを実施する。



【プログラムによる効果②】

さいたま市の教職員の高度専門職にふさわしい生涯職能成長をサポートするための研修環境の整備

さいたま市立教育研究所では、正規の教職員研修に加え、教職員の自主的・自発的な研修の場として平日夜間の研修会「『教師力』パワーアップ講座」を実施している。本プログラムでは、さいたま市の教職員の自主的・自発的な研修の場の拡大・充実を図るため、休日に研修会を実施する。



I 開発の目的・方法・組織

0. はじめに

埼玉大学教育学部では、さいたま市教育委員会と平成16年11月に締結した「さいたま教育コラボレーション協定」に基づき、「さいたま教育コラボレーション構想」を推進している。「さいたま教育コラボレーション構想」とは、さいたま市教育委員会と埼玉大学教育学部とが連携・協働し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上及び21世紀に生きる子どもたちの望ましい教育環境の整備のための実践的な研究及び活動を行い、その成果を活かしてさいたま市の教育の充実・発展を図るものである。

教員研修に関しては、これまでも、さいたま市の教職員研修において、埼玉大学教育学部の教員が指導者として招聘され講演や演習等を行っている。また、正規の教職員研修に加え、さいたま市立教育研究所が教職員の自主的・自発的な研修の場として実施している平日夜間の研修会「『教師力』パワーアップ講座」において、埼玉大学教育学部の教員が自らの専門性を生かした講座を提供している。

このように、埼玉大学教育学部では、これまでも、さいたま市教育委員会と連携・協働し、教職員研修の充実に努めてきた。

1. 開発目的

教員の大量退職期を迎え、教育委員会においては、優れた教職員の確保とともに、教職員の資質能力の向上が求められている。

一方で、現在、さいたま市では、約5,000人の教職員のうち、約1,000人が非正規採用教職員（臨時的任用教員、講師、相談員、支援員を指す。）である。正規採用教職員には、初任者研修等の年次研修をはじめ、多くの研修の機会が与えられているものの、非正規採用教職員には、研修の機会が十分に与えられていないのが現状である。学校の教育力の向上には、正規採用教職員だけでなく、非正規採用教職員の資質能力の向上が不可欠であり、これらの教職員に対する研修の充実が極めて重要である。

このような状況の中、さいたま市教育委員会では、正規の教職員研修に加え、前述した教育研究所が平日夜間に実施する「『教師力』パワーアップ講座」を活用し、非正規採用教職員を含む教職員の資質能力の向上に努めている。

そこで、埼玉大学教育学部では、平成23・24年度に、さいたま教育コラボレーション構想の一環として、非正規採用教職員を中心に、さいたま市の教職員の資質能力の向上を図るとともに、非正規採用教職員が自信を失うことなく正規採用教員へと向かっていくことができるよう支援するため、附属教育実践総合センターが主体となり、休日の研修会として実施した「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」（本プログラム）を、平成25年度はさらに充実させるよう開発を行うこととした。

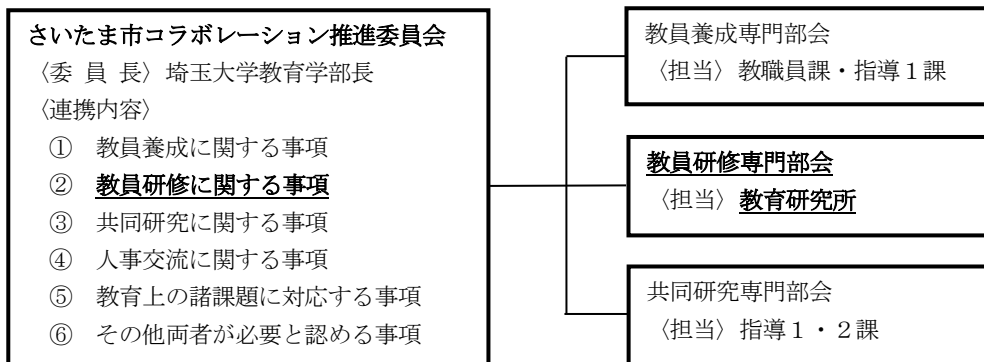
このように非正規採用教職員への研修を充実させることは、正規採用後即戦力となる人材を育成し、優れた教職員を確保することにもつながる。また、初任者研修をはじめとする正規の教職員研修と併せ、教育研究所が実施する「『教師力』パワーアップ講座」及び本研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を活用することで、教職員研修が立体的となり、教職員の高度専門職にふさわしい生涯職能成長をサポートするための研修環境を整備することができる。

2. 開発の方法

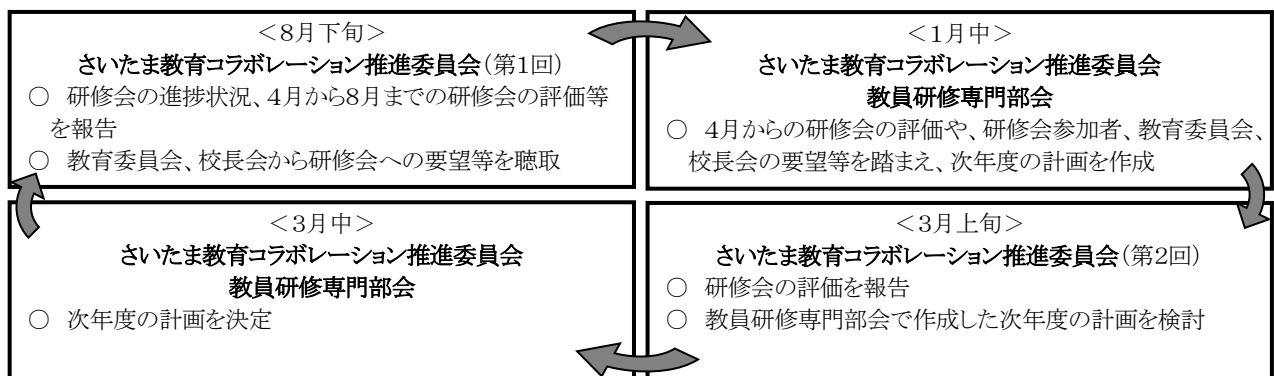
さいたま教育コラボレーション推進委員会及び同委員会教員研修専門部会を活用し、以下のとおり開発を行った。

- 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターの開発担当教員（2名）が、以下の3点を踏まえ、研修カリキュラムの原案を作成した。（平成25年3月）
 - ① 平成24年度に実施した10回の「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」における参加者の評価及び感想
 - ② 学校現場における諸課題の高度化・複雑化を示す中央教育審議会答申等の記述
 - ③ 埼玉大学教育学部の教員の専門性
- さいたま教育コラボレーション推進委員会教員研修専門部会を開催し、研修カリキュラムを決定した。（平成25年3月）

【参考】



- 研修会の実施主体である教育実践総合センターにおいて研修カリキュラムの評価を行い、さいたま教育コラボレーション推進委員会及び同委員会教員研修専門部会を活用し、次のサイクルで研修カリキュラムの改善を図った。



3. 開発組織

さいたま教育コラボレーション推進委員会教員研修専門部会の部員を中心に開発組織を構成した。

No	所属・職名	氏名	担当・役割
	<さいたま市教育委員会>		<さいたま教育コラボレーション推進委員会>
1	教育研究所・所長	五十嵐友一	推進委員
2	教育研究所・所長補佐兼企画係長	森 裕子	事務局（教員研修専門部会会長）
3	教育研究所・主任指導主事兼研修係長	大森恵美子	事務局（教員研修専門部会委員）
4	教育研究所・指導主事	佐野 公子	事務局（教員研修専門部会委員）
5	指導1課・主任指導主事兼振興係長	鈴木 晴雄	事務局（教員研修専門部会委員）
	<埼玉大学教育学部>		
6	教育学部・教授（学部長）	齊藤 享治	推進委員長
7	教育学部・教授（副学部長）	細渕 富夫	推進委員（教員研修専門部会副会長）
8	教育学部・教授（技術教育講座）	山本 利一	学部運営企画室担当
9	教育学部・教授（教育実践総合センター）	尾崎 啓子	企画・立案 研修会運営
10		小野 圭司	企画・立案 研修会運営

【参考】 ※ 下線のある委員等で開発組織を構成

◆ **さいたま教育コラボレーション推進委員会委員**

<さいたま市教育委員会等>

学校教育部長 学校教育部次長 管理部参事 学校教育部参事
 学校教育部教職員課長 学校教育部指導1課長 学校教育部指導2課長
 学校教育部高校教育課長 学校教育部健康教育課長 学校教育部教育研究所長
 市立小学校校長会会長 市中学校長会長

<埼玉大学教育学部>

教育学部長 教育学部教育研究評議員 教育学部副学部長
 教育学部運営企画室長 教育学部進路指導委員会委員長
 教育学部教育実習委員会委員長
 教育学部学校フィールドスタディ推進委員会委員長・副委員長
 教育学部支援室事務長
 (事務局)
 指導1課長補佐 指導2課長補佐 高校教育課長補佐
教育研究所長補佐 教職員課人事係長 指導1課振興係長
 指導2課特別支援教育係長 指導1課担当指導主事（2名） 指導2課担当指導主事
 高校教育課担当指導主事 健康教育課健康教育係長 教育研究所研修係長
教育研究所担当指導主事

◆ **さいたま教育コラボレーション推進委員会教員研修専門部会部員**

<さいたま市教育委員会>

教育研究所長補佐（部会長） 指導1課振興係長 教育研究所研修係長

<埼玉大学教育学部>

教育学部副学部長（副会長） 学部運営企画室担当

◆ その他

<埼玉大学教育学部>

附属教育実践総合センター担当2名

Ⅱ 開発の実際とその成果

1. 研修カリキュラム

(1) 対象者

さいたま市立小・中・特別支援学校に勤務する、すべての教職員（臨時的任用教員、講師、相談員、支援員、正規採用教員）。ただし、希望がある場合は、この限りではない。

(2) 人数

10～50名

(3) 研修テーマ

本研修は、発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実を図るため、多種多様な教職員が合同で研修を行い、立場を超えての学び合い（交流）を通して、教職員各個人が、発達障害のある児童生徒への指導・支援について、多面的・多角的な視点を身に付け、実践力を高めるとともに、教職員の連携に関するモデルやイメージを明確にもち、組織で対応する力を高めることができるよう支援することをねらいとする。

本プログラムは、平成24年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム「若手教員のキャリアアップのための学校教育における現代的課題に対応した研修カリキュラムの開発」における成果と課題を踏まえ、その2年次プログラムとして発展させ、開発を行うものである。

平成24年度のプログラムは、非正規採用教職員（臨時的任用教員、講師、相談員、支援員を指す。）を中心に、さいたま市の若手教職員の資質能力の向上を図るとともに、非正規採用教職員が自信を失うことなく正規採用教員へと向かっていくことができるよう支援するため、埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターが主体となり、休日の研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を実施するものであった。

臨床心理士である附属教育実践総合センターの教員を中心に、児童生徒・保護者との関係づくりや特別支援教育等、学校教育における現代的課題に対応したカリキュラムを実施した。

平成24年度の取組から、次のことが明確となった。

① 学校教育における現代的課題に関する学校現場の教職員の課題意識

学校教育における現代的課題について、学校現場の教職員の課題意識は、発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実にあることが明確となった。

平成24年度は、学校現場や教育委員会のニーズ、若手教員の実態等を踏まえ、学校教育における現代的課題について、網羅的に別々のテーマで10回の研修会を実施した。その中で、発達障害をテーマにした研修会「特別支援教育①～児童生徒への支援～」の参加者の数が最も多く、研修会の感想からも発達障害のある児童生徒への指導・支援に対する教職員の強い課題意識を確認することができた。また、研修会への要望では、発達障害に関する研修の充実を望む声が多く挙げられていた。

今後、発達障害のある児童生徒への指導・支援に関する研修の充実が求められる。

② 多種多様な教職員が合同で行う研修の価値

多種多様な教職員が合同で研修を行い、学び合う（交流する）ことによる効果が明確となった。

研修の感想や聴き取り調査からは、参加者の教員・相談員・支援員等それぞれの立場（視点）からの考えを知ることによる視野の広がり、それぞれの立場（役割）の理解の深まり、連携への意識の高まりを確認することができた。多種多様な教職員が合同で行う研修は、教職員各個人の資質能力は勿論、学校の組織力を高め、学校の教育力の向上につながるものと確信する。このような研修を通して、教員が日々の指導の充実のために、相談員や支援員等の視点をどのように取り込んでいけばよいのか、相談員や支援員が児童生徒への支援を充実させるために、自らの考えをどのように教員へ発信していけばよいのか、教員・相談員・支援員等がそれぞれのケースにおいて、どのように連携を図っていけばよいのかなど、教職員の連携に関する具体的なモデルやイメージをもつことができるようになることを考える。また、研修を通じて、参加者がつながることにより、立場や学校、学校種を超えて、情報を交換したり、困ったときに相談したりできる関係性を築くことができるなどの効果も期待できる。

平成24年度の研修カリキュラムについては、参加者が学校教育における現代的課題に関する多くの知識を得るという点においては十分であった。しかし、広く多岐にわたってテーマを取り上げたため、参加者の実践力を高めるという点においては課題が残った。参加者の実践力を高めるためには、テーマを絞り、内容をより具体的かつ実践的なものへと改善し、参加者のスキルアップを図っていくことが必要である。

そこで、平成25年度は、上記①、②を踏まえ、以下の2つの視点で開発を行う。

《視点①》

テーマを「発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実」に特化し、その実現に向けた包括的かつ系統的な研修カリキュラムを開発する。

これは、平成24年度の取組から、学校現場の教職員の課題意識が発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実にあることが明確となり、現在の学校教育における重要課題であると同時に、すべての児童生徒に対する指導・支援の充実につながる重要な視点であるためである。

《視点②》

立場や学校、学校種を超えた交流を通して、教職員各個人が、発達障害のある児童生徒への指導・支援について、多面的・多角的な視点を身に付け、実践力を高めるとともに、教職員の連携に関するモデルやイメージを明確にもち、組織で対応する力を高めることができる具体的かつ実践的な研修カリキュラムを開発する。

これは、多種多様な教職員が合同で研修を行い、学び合う（交流する）ことによる効果が明確となったためである。

なお、対象者について、平成24年度は「経験年数5年以下の正規採用教員」とし、正規採用教員については、若手を対象としていたが、発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実は、経験年数にかかわらず多くの教員が課題としてとらえていること、現在の学校教育における重要課題であること等を踏まえ、平成25年度は「経験年数5年以下」という条件を外すこととする。

これらの視点で開発を行うとともに、さいたま教育コラボレーション推進委員会教員研修専門部会において協議し、以下のとおり、学校教育における現代的課題の一つである「発達障害のある児童生徒への指導・支援」に焦点を当てた全10回の研修テーマを設定した。

《研修テーマ》

- ◇ 第1回 通常学級における特別支援教育
- ◇ 第2回 学校巡回相談支援からみえてきた課題
- ◇ 第3回 教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル
- ◇ 第4回 発達障害のある児童生徒の保護者にできる教師の支援
- ◇ 第5回 発達障害のある児童生徒のストレス・マネジメント
- ◇ 第6回 発達障害のある児童生徒への学習指導
- ◇ 第7回 発達障害のある児童生徒への進路指導
- ◇ 第8回 発達障害と非行・問題行動
- ◇ 第9回 二次障害としての不登校対応
- ◇ 第10回 事例研究

(4) 評価方法

研修会終了時に、以下の項目でアンケート調査を行った。

《アンケート項目》

- ① 研修内容の興味関心【選択】
 - A とても合っていた
 - B おおむね合っていた
 - C あまり合っていなかった
 - D 合っていなかった
- ② 研修内容の理解【選択】
 - A 十分理解できた
 - B おおむね理解できた
 - C あまり理解できなかった
 - D 理解できなかった
- ③ 研修会の満足度【選択】
 - A 十分満足できた
 - B おおむね満足できた
 - C あまり満足できなかった
 - D 満足できなかった
- ④ 研修会の感想【記述】
- ⑤ 研修会への要望や今後参加を希望する研修の内容【記述】
- ⑥ 研修会を知った方法【選択・記述】
 - A 学校への案内文書・ポスター等
 - B 実践センターホームページ
 - C 人に紹介されて
 - D 昨年度も参加
 - E その他 ()

第1回 教職員キャリアアップ・サポートセミナー アンケート

氏名 _____

1 次の各項目について、当てはまるものに○をつけてください。

① 今回の研修内容は、ご自身の興味関心と合っていましたか。
A とても合っていた B おおむね合っていた C あまり合っていなかった D 合っていなかった

② 今回の研修内容は、どの程度理解できましたか。
A 十分理解できた B おおむね理解できた C あまり理解できなかった D 理解できなかった

③ 今回の研修会の満足度はどの程度でしたか。
A 十分満足できた B おおむね満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった

2 研修会の感想をご記入ください。

3 研修会への要望や今後参加を希望する研修の内容をご記入ください。

4 今回の研修会については、何でお知りになりましたか。 ※初めて出席された方のみ
A 学校への案内文書・ポスター等 B 実践センターホームページ C 人に紹介されて D 昨年度も参加
E その他 ()

ご協力ありがとうございました。

(5) 周知方法

研修会の実施について、以下のとおり周知を図った。

- 【 4月】○ さいたま市立学校の校長会において、研修会の実施について説明し、教職員への周知を依頼した。
- 【 5月】○ さいたま市立教育研究所が実施する1年目の臨時的任用教員を対象とした研修会（第1回全体会）において、研修会の実施について説明した。
 - さいたま市立全小・中・特別支援学校（162校）へ研修会の実施要項、開催案内、ポスター等（5・6・7月実施分）を郵送した。
- 【 8月】○ さいたま市立全小・中・特別支援学校（162校）へ研修会の実施要項、開催案内、ポスター等（9・10・11・12月実施分）を郵送した。
- 【12月】○ さいたま市立全小・中・特別支援学校（162校）へ研修会の実施要項、開催案内、ポスター等（1・2月実施分）を郵送した。
- 【その他】○ 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターのホームページに実施要項等を掲載した。

(6) 資料

平成25年度「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」実施要項

1 目 的

発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実を図るため、多種多様な教職員が合同で研修を行い、立場を超えての学び合い（交流）を通して、教職員各個人が、発達障害のある児童生徒への指導・支援について、多面的・多角的な視点を身に付け、実践力を高めるとともに、教職員の連携に関するモデルやイメージを明確にもち、組織で対応する力を高めることができるよう支援する。

2 対 象 者

さいたま市立小・中・特別支援学校に勤務するすべての教職員
（臨時的任用教員、講師、相談員、支援員、正規採用教員）
ただし、希望がある場合は、この限りではない。

3 会 場

埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター（埼玉大学教育学部附属小学校敷地内）

4 開催日程等（予定）

《第1回》

- 日時： 6月1日（土）14：30～17：00
- 内容：講義・演習「通常学級における特別支援教育」
（講義）通常学級における特別支援教育 等
（演習）事例を基にした協議 等
（講師）埼玉大学教育学部教授 尾崎 啓子
（会場）埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

《第2回》

- 日時： 6月15日（土）14：30～17：00
- 内容：講義・演習「学校巡回相談支援からみえてきた課題」
（講義）学校巡回相談支援からみえてきた課題 等
（演習）事例を基にした協議 等
（講師）埼玉大学教育学部附属特別支援学校
特別支援教育臨床研究センター専門相談員 國分 操
（会場）埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

《第3回》

- 日時： 7月20日（土）14：30～17：00
- 内容：講義・演習「教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル」
（講義）教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル 等
（演習）事例を基にした協議、ロールプレイング 等
（講師）埼玉純真短期大学子ども学科教授 伊藤 道雄
（会場）埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

《第4回》

- 日時： 9月14日（土）14：30～17：00
- 内容：講義・演習「保護者支援」
（講義）発達障害のある児童生徒の保護者にできる教師の支援 等
（協議）事例を基にした協議、ロールプレイング 等
（講師）埼玉大学教育学部准教授 名越 斉子
（会場）埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

《第5回》

- 日時： 9月21日(土) 14:30~17:00
- 内容：講義・演習「児童生徒のストレス・マネジメント」
(講義) 発達障害のある児童生徒のストレス・マネジメント 等
(演習) 事例を基にした協議 等
(講師) 東京学芸大学教育実践研究支援センター教授 橋本 創一
(会場) 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

《第6回》

- 日時： 10月19日(土) 14:30~17:00
- 内容：講義・演習「学習指導」
(協議) 発達障害のある児童生徒への学習指導 等
(演習) 事例を基にした協議 等
(講師) さいたま市教育委員会学校教育指導2課指導主事 中原みゆき
(会場) 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

《第7回》

- 日時： 11月16日(土) 14:30~17:00
- 内容：講義・演習「進路指導」
(講義) 発達障害のある児童生徒の進路と就労 等
(演習) 事例を基にした協議 等
(講師) さいたま市保健福祉局福祉部長 山本 信二
(会場) 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

《第8回》

- 日時： 12月7日(土) 14:30~17:00
- 内容：講義・演習「非行・問題行動への対応」
(講義) 発達障害と非行・問題行動 等
(演習) 事例を基にした協議 等
(講師) 埼玉県警察本部少年サポートセンター元所長 湯谷 優
(会場) 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

《第9回》

- 日時： 1月25日(土) 14:30~17:00
- 内容：講義・演習「不登校対応」
(講義) 二次障害としての不登校対応 等
(演習) 事例を基にした協議 等
(講師) 東京学芸大学教育実践研究支援センター教授 橋本 創一
(会場) 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

《第10回》

- 日時： 2月15日(土) 14:30~17:00
- 内容：講義・演習「事例研究」
(演習) 事例を基にしたグループ協議 等
(講師) 埼玉大学教育学部教授 尾崎 啓子
(会場) 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

5 申し込み

別添の申込用紙にて、教育実践総合センターあてにFAXでお申込みください。

6 その他

- (1) お越しの際は、公共交通機関等をご利用ください。
- (2) 服装は自由です。お気軽にご参加ください。

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
TEL 048(832)9866
FAX 048(831)0044
<http://www.center.edu.saitama-u.ac.jp>

『教職員キャリアアップ・サポートセミナー』
「発達障害のある児童生徒と保護者への支援
～特別支援教育を楽しく、効果的に行うために～」
前期開催のご案内

このセミナーは、さいたま市の教職員のキャリアアップをサポートするため、埼玉大学が実施する研修会（全10回）です。

講師による話題提供と、参加者による話し合いや情報交換を行います。
多くの方のご参加をお待ちしております。

- ◇ 対象：さいたま市立小・中・特別支援学校に勤務する、すべての教職員（臨時的任用教員、講師、相談員、支援員、正規採用教員）
このほか、希望がある場合はこの限りではありませんので、お問い合わせください。
- ◇ 会場：埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
さいたま市大宮区桜木町 1-7-5 ソニックシティビル5階
（JR大宮駅徒歩5分）

最寄り駅からの順路（大宮ソニックシティカレッジ）



JR大宮駅西口を出て、2階通路を直進する。



JR大宮駅西口からソニックシティビル方面を望む。



大宮ソニックシティビル



大宮ソニックシティビル2階入口



埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ入口（5階）

<第1回>

通常学級における特別支援教育

- 日時：平成25年 6月 1日（土）14：30～17：00
- 講師：埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 尾崎 啓子 先生
- 内容：通常学級で特別支援教育を進めるための基礎的な考え方や、より良い支援に向けての工夫について学びます。

<第2回>

学校巡回相談支援からみえてきた課題

- 日時：平成25年 6月 15日（土）14：30～17：00
- 講師：埼玉大学教育学部附属特別支援学校 特別支援教育臨床研究センター 専門相談員 國分 操 先生
- 内容：子どもたちへの支援を外部の専門家と連携して進める場合の特徴や留意点などについて、豊富な事例を通して学びます。

<第3回>

教職員が身につけたいコミュニケーションスキル・ 児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル

- 日時：平成25年 7月 20日（土）14：30～17：00
- 講師：埼玉純真短期大学子ども学科 教授 伊藤 道雄 先生
- 内容：特別な教育ニーズをもつ子どもたちへの教育、支援を行う際に役立つスキルについて、コミュニケーションの観点から学びます。

申し込み方法

申し込みは、毎回必要となります。

別紙「教職員キャリアアップ・サポートセミナー申込用紙」に必要事項をご記入いただき、FAXで送付してください。（FAX：048-831-0044）

なお、申し込みは、当日まで可能ですので、ご都合がございましたら、是非ご参加ください。

【お問い合わせ先】埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

TEL：048-832-9866（火・水・金曜日 10時～16時）

教職員キャリアアップ・サポートセミナー 申込用紙

F A X 送信先

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

048-831-0044

平成 年 月 日（土）開催の

教職員キャリアアップ・サポートセミナー〈第 回〉

に参加を申し込みます。

氏 名

※ 該当するものに○をつけてください。

- 臨時的任用教員 非常勤講師
 少人数指導等支援員 さわやか相談員
 その他（_____）
 正規採用教員：経験年数_____年

学校名

学校

連絡先

(勤務先電話番号)

〈注意〉

- ・ 申し込みは、毎回必要となります。
- ・ 申込用紙は、1回の講座につき1枚でお願いいたします。複数の講座への参加を希望する場合は、お手数ですが、申込用紙を回ごとにFAXで送付してください。
- ・ 申し込みは、講座の実施当日まで受け付けております。

第 回 教職員キャリアアップ・サポートセミナー アンケート

氏名 _____

1 次の各項目について、当てはまるものに○をつけてください。

① 今回の研修内容は、ご自身の興味関心と合っていましたか。

A とても合っていた B おおむね合っていた C あまり合っていなかった D 合っていなかった

② 今回の研修内容は、どの程度理解できましたか。

A 十分理解できた B おおむね理解できた C あまり理解できなかった D 理解できなかった

③ 今回の研修会の満足度はどの程度でしたか。

A 十分満足できた B おおむね満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった

2 研修会の感想をご記入ください。

3 研修会への要望や今後参加を希望する研修の内容をご記入ください。

4 今回の研修会については、何でお知りになりましたか。 ※初めて出席された方のみ

A 学校への案内文書・ポスター等 B 実践センターホームページ C 人に紹介されて D 昨年度も参加
E その他（ _____ ）

ご協力ありがとうございました。

2. 「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」の実際

≪第1回≫ 通常学級における特別支援教育

- (1) 開催日時 平成25年 6月 1日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
(3) 講師 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 尾崎 啓子
(4) 内容 通常学級での特別支援教育を進めるための基礎的な考え方や、より良い支援に向けての工夫について学ぶ。

＜講義＞ (70分)

I. 発達障害のある子どもたちへの教育的支援

1. 発達障害とは
2. 理解の視点
3. 通常学級における支援
4. 保護者との協力・連携
5. 校内支援体制の構築

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 25名
正規採用教員：6名、臨時的任用教員：5名、さわやか相談員：5名、在学生：3名、その他支援員：2名、スクールカウンセラー：1名、社会福祉士：1名、学童指導員：1名、教育委員会関係：1名
- (6) 参加者の評価
- ① 研修内容の興味関心
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 23名 | B おおむね合っていた | : 1名 |
| C あまり合っていなかった | : 0名 | D 合っていなかった | : 0名 |
- ② 研修内容の理解度
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分理解できた | : 17名 | B おおむね理解できた | : 7名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |
- ③ 研修会の満足度
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 21名 | B おおむね満足できた | : 3名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |
- (7) 参加者の感想
- 今年度も参加でき、とても幸せです。少し遠くなりましたが来て良かったという気持ちです。ありがとうございました。自分が通常にいたころのこどもたちを思い浮かべながら、あの時、このことを理解していたらもう少し違った対応ができたかなと感じる内容がありました。また、発達障害のあるお子さんの理解者でいられる先生になりたいなという気持ちがめばえてきています。
- (8) 研修会を知った方法等
- | | | | |
|------------------|-------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 13名 | B 実践センターホームページ | : 0名 |
| C 人に紹介されて | : 4名 | D 昨年度も参加 | : 6名 |
| E その他 ※ | : 3名 | | |
- ※ 案内が郵送で届いた、電話で問合せ、臨任研修会のお知らせ



《第2回》 学校巡回相談支援からみえてきた課題

- (1) 開催日時 平成25年 6月15日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
(3) 講師 埼玉大学教育学部附属特別支援学校
特別支援教育臨床研究センター専門相談員 國分 操
(4) 内容 子どもたちへの支援を外部の専門家と連携して進める場合の特徴や留意点などについて、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

- I 学校コンサルテーションとは
II 臨床研究センターしいのみのコンサルテーションの進め方
III よりよいコンサルテーションをめざして

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 29名
正規採用教員：7名、さわやか相談員：7名、在学生：6名、臨時的任用教員：3名、その他
支援員：3名、相談員：1名、少人数指導支援員：1名、教育委員会関係：1名

(6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- A とても合っていた : 18名 B おおむね合っていた : 10名
C あまり合っていなかった : 1名 D 合っていなかった : 0名

② 研修内容の理解度

- A 十分理解できた : 10名 B おおむね理解できた : 19名
C あまり理解できなかった : 0名 D 理解できなかった : 0名

③ 研修会の満足度

- A 十分満足できた : 16名 B おおむね満足できた : 13名
C あまり満足できなかった : 0名 D 満足できなかった : 0名

(7) 参加者の感想

○コンサルテーションについて特に相談票を出して見ていただくというより、ついでにクラスの気になる子の様子を見ていただいたように思います。グループディスカッションでも発達障害の子どもはどこの学校でも多いという現実がわかり、これからコンサルテーションの活用が増えていくのではと感じました。また、担任など子どものまわりにいる関係者が状況を理解し、支援をしていくことが大切だと思いました。ありがとうございました。

○学校コンサルテーションについて知らないことが多かったので、この機会にシステムの概要や実態を学ぶことができ良かったです。自分は経験が少ないけれども、ボランティア等で子どもと接することも多いので、障害のある子どもや問題を抱える子どもに何が必要なのか考えながら、手立てを模索していきたいと思いました。一人ひとりを据えることは、担任の仕事量の多さや人手不足から大変なようですが、子どもが楽しく学校生活を送ることができるよう何かしていきたいと考えます。

○「しいのみ」の優しさの伝わるお話しでした。忙しさにかまけてしまいたくさん話をするひとの大切さを感じました。また、「直す、治す、正す」という視点でみているは何も始まりず、困っている子供たちのために何が出来るか、学校側が困っていると思ったら支援など遠のいていく様な気がしました。若い先生方にもそういうことがわかってほしいと、現場の思いを伝えていかなければと思います。

(8) 研修会を知った方法等

- A 学校への案内文書・ポスター等 : 15名 B 実践センターホームページ : 0名
C 人に紹介されて : 3名 D 昨年度も参加 : 2名
E その他 : 0名

《第3回》 教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル

- (1) 開催日時 平成25年 7月20日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
(3) 講師 埼玉純真短期大学子ども学科 教授 伊藤 道雄
(4) 内容 特別な教育ニーズをもつ子どもたちへの教育、支援を行う際に役立つスキルについて、コミュニケーションの観点から学ぶ。

<講義> (70分)

1. 特殊教育～特別支援教育
2. 発達障害があっても生きていける
3. 集団参加(社会性)のポイント
4. セルフ・エスティーム(自尊感情・自己有用感)

<演習> グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 33名
臨時的任用教員:7名、さわやか相談員:7名、正規採用教員:5名、在学生:4名、その他支援員:3名、看護師:3名、少人数指導支援員:2名、スクールカウンセラー:1名、教育委員会関係:1名

(6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 25名 | B おおむね合っていた | : 8名 |
| C あまり合っていなかった | : 0名 | D 合っていなかった | : 0名 |

② 研修内容の理解度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分理解できた | : 24名 | B おおむね理解できた | : 9名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |

③ 研修会の満足度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 26名 | B おおむね満足できた | : 7名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |

(7) 参加者の感想

- 自分の仕事をふり返り、支援できることから、がんばっていこうという気持ちになりました。この研修会は他の職種の方と話し合いがあるので、また違った刺激を受けることが出来ます。ユニバーサルデザインについての資料も学校として活用させていただきます。
- 今日は座学に加え、実践的な活動等も多く、とても勉強になりました。特別支援教育の担当を目指しており、根本となる大切な考え方から、将来使える授業等のポイントを学べ、一人ひとりの子どもを大切にしていきたいと思いました。また、自身にはインクルージョンの考え方が足りず、マイナスに考えることもあったと気づかされました。子どものよさに目を向け、障害のある子もない子も仲良く楽しく過ごせる学校づくりをしてみたいです。
- 「この子らを世の光に」、何年か振りに耳にしたこの言葉。発達障害という言葉がひんぱんに出てくるようになった教育現場ですが、あくまでも教える側の環境因子で障害を作ってはならないと改めて認識致しました。「困った子」ではなく「困っている子」という受け止め方に立てば、「一人一人を大切に」「子どもの価値を見いだす」事は子どもと自分自身の育ち合いと感じました。

(8) 研修会を知った方法等

- | | | | |
|------------------|-------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 13名 | B 実践センターホームページ | : 0名 |
| C 人に紹介されて | : 5名 | D 昨年度も参加 | : 5名 |
| E その他 | : 1名 | | |

※臨任研修での通知

《第4回》 発達障害のある児童生徒の保護者にできる教師の支援

- (1) 開催日時 平成25年 9月14日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
(3) 講師 埼玉大学教育学部特別支援教育講座 准教授 名越 斉子
(4) 内容 発達障害のある児童生徒の保護者にできる教師の支援について、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. はじめに
2. 建前と本音
3. 先生と保護者の見方のずれ
4. 問題の背景にあるもの
5. 事例
6. 告知や障害受容
7. まとめ

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 18名
正規採用教員：6名、臨時的任用教員：5名、さわやか相談員：3名、特別支援学級補助員：1名、在学生：1名、看護師：1名、教育委員会関係：1名

(6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 12名 | B おおむね合っていた | : 6名 |
| C あまり合っていなかった | : 0名 | D 合っていなかった | : 0名 |

② 研修内容の理解度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分理解できた | : 14名 | B おおむね理解できた | : 4名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |

③ 研修会の満足度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 16名 | B おおむね満足できた | : 2名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |

(7) 参加者の感想

- 今日も先生の講義はとてもためになりました。自分自身の相談活動を振り返るよい時間となりました。常に子どもにとって、又、保護者にとって何が一番良いのかを考えて支援をしていけたらと思います。ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。自分自身がトラブルになる保護者を「困った保護者」として見ていたこと、障害児を抱える保護者の気持ちを理解せず、「就労することをめざして入学してきたのだから」と固定的な見方で関わってきたのだと感じ、とても反省しました。本当の意味で保護者によりそう支援ができるようになることが、子どもの支援をよりよいものにし、子どもの成長につながるのだと改めて感じました。
- 今回の研修会では、通級で保護者の方と面談する上で、改めて気付かされたことがたくさんありました。いつも何かしてあげたいという思いが強く出てしまうのですが、時にはじっくり保護者の話を聞く時間を設けたり、自分の考えを疑ってみたりすることも必要なのだと学びました。

(8) 研修会を知った方法等

- | | | | |
|------------------|------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 3名 | B 実践センターホームページ | : 0名 |
| C 人に紹介されて | : 2名 | D 昨年度も参加 | : 1名 |
| E その他 | : 2名 | | |

※1回目に参加した際の予定表

《第5回》 発達障害のある児童生徒のストレス・マネジメント

- (1) 開催日時 平成25年 9月21日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
(3) 講師 東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授 橋本 創一
(4) 内容 発達障害のある児童生徒のストレス・マネジメントについて、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. ストレス・マネジメント概要
2. コーピングの内容

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 23名

正規採用教員：7名、さわやか相談員：6名、臨時的任用教員：3名、養護教諭：2名、特別支援学級補助員：1名、在学生：1名、少人数指導等支援員：1名、学級等支援員：1名、教育委員会関係：1名

- (6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 12名 | B おおむね合っていた | : 9名 |
| C あまり合っていなかった | : 1名 | D 合っていなかった | : 0名 |

② 研修内容の理解度

- | | | | |
|---------------|------|-------------|-------|
| A 十分理解できた | : 7名 | B おおむね理解できた | : 15名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |

③ 研修会の満足度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 12名 | B おおむね満足できた | : 9名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |

- (7) 参加者の感想

○今まで特別支援教育において、子どもに対してストレスを与えず、失くすことが必要なのかと考えていたけれど、失くすのではなく、耐性をつけるのがストレス・マネジメントと聞いて少し驚きました。学校の中の特別支援の教育は学校に在籍している期間だけだと思っていたけれども、もっと長期を考えなければいけないのだなど、あたり前ながら感じました。事件は学校で起きているから学校で対応すべきというのは、とてもしっくりきました。

○エスケイプの仕方、リラクゼーションの仕方など、すぐに担任の先生と相談して生かせそうなことがあります、できることから実践していきたいと思いました。ただ、小学校低学年だと冷静な状態のときに個別に話すというような時間をどう設定すればいいのかが難しいです。学校全体で系統立てて取り組まないと難しいのかもしれないと思いました。いろいろ考えさせられる内容の濃いお話をありがとうございました。

○さわやか相談員をしております。相談室登校をしている生徒一人ひとり、又、小学校の児童であの子、この子と、お話を伺いながら子どもの顔、保護者の顔を思い出していました。具体的な事例を通しての講義で、イメージしやすくとてもよかったです。

○橋本先生の講義はおもしろいです！といったら失礼にあたるかもしれませんが、大変興味をそそる話題をわかりやすく話して下さい、自分だったらどんな風にかせるだろうかと、いろいろ思いをめぐらせています。また何回でもお話いただけたらうれしいです。ありがとうございました。

- (8) 研修会を知った方法等

- | | | | |
|------------------|-------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 11名 | B 実践センターホームページ | : 1名 |
| C 人に紹介されて | : 1名 | D 昨年度も参加 | : 3名 |
| E その他 | : 0名 | | |

《第6回》 発達障害のある児童生徒への学習指導

- (1) 開催日時 平成25年10月19日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
(3) 講師 さいたま市教育委員会学校教育指導2課 指導主事 中原 みゆき
(4) 内容 発達障害のある児童生徒の学習指導について、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. はじめに
2. 学習(活動)への参加のための支援
3. 学習理解のために支援
4. 個への支援
5. まとめ

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 15名
正規採用教員: 4名、さわやか相談員: 3名、臨時的任用教員: 2名、在学生: 2名、特別支援学級補助員: 1名、少人数指導等支援員: 1名、学級等支援員: 1名、教育委員会関係: 1名

- (6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 14名 | B おおむね合っていた | : 1名 |
| C あまり合っていなかった | : 0名 | D 合っていなかった | : 0名 |

② 研修内容の理解度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分理解できた | : 11名 | B おおむね理解できた | : 3名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |

③ 研修会の満足度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 13名 | B おおむね満足できた | : 1名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |

- (7) 参加者の感想

○前回までの研修の中でも感じていましたが、中学校における特別支援はとても難しいものだと今回改めて感じました。グループディスカッションをする中で小学生と中学生の差であったり、教師側の考え方の違いもあたり、中学校にはまだ特別支援教育の意識が少ないと感じました。学習指導の方法に関してとても興味深い内容で、小学校においてはとても活用できるものだと思います。中学校や高校でも学校内でも学校内で統一したルールをつくることの必要性を感じることができました。

○大学から特別支援を学んできましたが、スリットの作り方等、今のクラスの子への支援で迷っていたことや、10の唱え方等、新たなことをたくさん知ることができました。また、他学年の先生から支援の仕方を聞くことが出来たため、今後に役立てていきたいと思います。

○現職の先生方の中に学生が参加することに少し戸惑いもありましたが、先生方の経験に基づいた実践のお話をたくさん聞いたことは、とても貴重で勉強になることばかりでした。特別支援の中にも様々な立場の方がいて、それぞれの立場の意見を聞くことができました。私は特別支援を専攻しているわけではありませんが、特別支援とはそのくりにおさまるものではなく、子どもたちひとりひとりの学びを支援するためのものであると感じました。今日は勇気を出して来てよかったです。

- (8) 研修会を知った方法等

- | | | | |
|------------------|------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 1名 | B 実践センターホームページ | : 0名 |
| C 人に紹介されて | : 0名 | D 昨年度も参加 | : 3名 |
| E その他 | : 0名 | | |

《第7回》 発達障害のある児童生徒への進路指導

(1) 開催日時 平成25年11月16日(土) 14:30~17:00

(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ

(3) 講師 さいたま市保健福祉局 福祉部長 山本 信二

(4) 内容 発達障害のある児童生徒の進路と就労について、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. 発達障害について
2. さいたま市発達障害者支援体制
3. 発達障害者であっても、一人ひとりの特性や困難さ、支援の必要さによって支援のあり方が違う
4. 卒業後利用できる生活・社会参加・相談支援の場
5. 進路
6. 企業等への就職
7. 就労支援機関
8. 職業準備性とは
9. どんな仕事があるのか
10. 企業が求めるもの
11. さいたま市の障害者就労支援体制
12. 三つの特性
13. 二次障害とは
14. 事例
15. 具体的な対応
16. 支援する上での課題(成人)

＜演習＞ グループ協議 (30分)

(5) 参加者 15名

さわやか相談員：5名、正規採用教員：4名、臨時的任用教員：2名、在学生：1名、スクールカウンセラー：1名、相談員：1名、教育委員会関係：1名

(6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

A とても合っていた	: 14名	B おおむね合っていた	: 1名
C あまり合っていなかった	: 0名	D 合っていなかった	: 0名

② 研修内容の理解度

A 十分理解できた	: 11名	B おおむね理解できた	: 3名
C あまり理解できなかった	: 0名	D 理解できなかった	: 0名

③ 研修会の満足度

A 十分満足できた	: 13名	B おおむね満足できた	: 2名
C あまり満足できなかった	: 0名	D 満足できなかった	: 0名

(7) 参加者の感想

○特別支援学校では、キャリア教育の観点から卒業後の進路や就労について話を聞いていましたが、いつもあたり前のように話していた内容をより細かく、支援体制や図などで理解することができました。この分野も専門的で理解するまでに聞き返すことも多く奥が深いのだと感じています。子どもたちの将来にかかわることなので教員としてしっかりと勉強していきたいと思いました。

(8) 研修会を知った方法等

A 学校への案内文書・ポスター等	: 1名	B 実践センターホームページ	: 0名
C 人に紹介されて	: 0名	D 昨年度も参加	: 3名
E その他	: 0名		

《第8回》 発達障害と非行・問題行動

- (1) 開催日時 平成25年12月 7日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
(3) 講師 埼玉県警察本部少年サポートセンター 元所長 湯谷 優
(4) 内容 発達障害と非行・問題行動について、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. 一般的タイプ
2. 発達障害の視点から見たタイプ
3. 対応上の留意点

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 14名
さわやか相談員：6名、正規採用教員：3名、臨時的任用教員：2名、在学生：2名、教育委員会関係：1名

- (6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 12名 | B おおむね合っていた | : 2名 |
| C あまり合っていなかった | : 0名 | D 合っていなかった | : 0名 |

② 研修内容の理解度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分理解できた | : 10名 | B おおむね理解できた | : 4名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |

③ 研修会の満足度

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 13名 | B おおむね満足できた | : 1名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |

- (7) 参加者の感想

- 非行・問題行動について、タイプ別に事例を含めて話していただいたのが、とてもわかりやすかった。発達障害を伴ったタイプが増えているというが、今までも教師側でそのようなタイプがいることを認知してきたのかなという感じがする。それにしても子供の背景にはいろいろなことがありすぎて、多面的にとらえる教師側の柔軟な考え方や対応が必要であると感じた。
- 非行・問題行動について、タイプ別に事例を含めて話していただいたのが、とてもわかりやすかった。発達障害を伴ったタイプが増えているというが、今までも教師側でそのようなタイプがいることを認知してきたのかなという感じがする。それにしても子供の背景にはいろいろなことがありすぎて、多面的にとらえる教師側の柔軟な考え方や対応が必要であると感じた。
- 非行・問題行動への対応について、して良いこと・悪いこと、許される場合・許されない場合、学校のことは学校が決めると、ハッキリ分らせるということが必要と言われたことが一番印象に残りました。どうしても生徒に接していると、本人がそう言っているのなら良いかと流して指導していたので、もう一度考えて対応していきたいと思います。
- 発達障害の子で中学校ではまだ問題行動が大きくはないが、今後、適切な環境（場や人的なものも含め）が用意されないとマズイ方向に行くのではないかなという危惧を抱いている子がいます。一番ネックになっているのは、親御さんとの温度差です。でも最後に先生がおっしゃった親と学校が同じ方向を向けるよう、何度も親御さんの気持ちに共感しながら、お話をさせて頂こうと思いました。
- 生徒の顔を思い浮かべながら何うことができました。型に分けていただき、とても理解しやすかったです。関わる事例は多様なので現場で活かせるよういただいた資料を読み返し学びたいと思います。

- (8) 研修会を知った方法等

- | | | | |
|------------------|------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 0名 | B 実践センターホームページ | : 0名 |
| C 人に紹介されて | : 0名 | D 昨年度も参加 | : 1名 |
| E その他 | : 0名 | | |

《第9回》 二次障害としての不登校対応

- (1) 開催日時 平成26年 1月25日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
(3) 講師 東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授 橋本 創一
(4) 内容 二次障害としての不登校対応について、豊富な事例を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. 不登校の現状
2. 不応の対応

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 12名

さわやか相談員:3名、正規採用教員:3名、臨時的任用教員:3名、スクールカウンセラー:1名、在学生:1名、教育委員会関係:1名

- (6) 参加者の評価

① 研修内容の興味関心

- | | | | |
|---------------|------|-------------|------|
| A とても合っていた | : 9名 | B おおむね合っていた | : 3名 |
| C あまり合っていなかった | : 0名 | D 合っていなかった | : 0名 |

② 研修内容の理解度

- | | | | |
|---------------|------|-------------|------|
| A 十分理解できた | : 6名 | B おおむね理解できた | : 6名 |
| C あまり理解できなかった | : 0名 | D 理解できなかった | : 0名 |

③ 研修会の満足度

- | | | | |
|---------------|------|-------------|------|
| A 十分満足できた | : 8名 | B おおむね満足できた | : 4名 |
| C あまり満足できなかった | : 0名 | D 満足できなかった | : 0名 |

- (7) 参加者の感想

- 発達障害に限らず、不登校に関する問題は解決しにくい分、とても難しいかなと思いました。でも、今回先生の話聞いて原因について考えることができたり、グループワークの中で解決した例を参考にどう行動したらうまくいくのかを考えたりすることができたのでよかった。これから教員になる身として、学級経営などしっかりと子どもを見て初期段階で気づいていければいいと思いました。
- 不登校の状態を生じる背景について知ることができ、勉強になりました。他の方々からのうまくいった事例はとても参考になりました。直接、不登校生徒とかかわる機会は今のところないので、校内で活かしていけたらいいと思います。
- 発達障害に限らず、不登校に関する問題は解決しにくい分、とても難しいかなと思いました。でも、今回先生の話聞いて原因について考えることができたり、グループワークの中で解決した例を参考にどう行動したらうまくいくのかを考えたりすることができたのでよかった。これから教員になる身として、学級経営などしっかりと子どもを見て初期段階で気づいていければいいと思いました。
- 橋本先生の話からいろいろなことを思い出し、もしかしてあれは？と感じるようなトピックスがたくさんありました。普段から敏感にとらえられる能力も必要なかと拡がりのある考え方の中で、子どもたちの指導実践に役立てていきたいと思いました。
- 相談員をしていると「不登校」は日々頭を痛めている問題なので、とっても興味深く聞かせて頂きました。大人の発達障害の話や、睡眠リズムの話、虐待の家庭の問題点など、どれも深い話でした。不登校については、発達障害という視点を持ちつつ、あきらめずにあせらずに対応し続けていきたいと思っています。

- (8) 研修会を知った方法等

- | | | | |
|------------------|------|----------------|------|
| A 学校への案内文書・ポスター等 | : 3名 | B 実践センターホームページ | : 0名 |
| C 人に紹介されて | : 0名 | D 昨年度も参加 | : 0名 |
| E その他 | : 0名 | | |

《第10回》 事例研究

- (1) 開催日時 平成26年 2月15日(土) 14:30~17:00
(2) 開催場所 埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
(3) 講師 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 尾崎 啓子
(4) 内容 発達障害に関する事例を基に、グループ協議等を通して学ぶ。

＜講義＞ (70分)

1. 事例研究の大切さ
2. 事例検討の方法

＜演習＞ グループ協議 (30分)

- (5) 参加者 6名

さわやか相談員：2名、正規採用教員：1名、臨時的任用教員：1名、スクールカウンセラー：1名、在学生：1名

- (6) 参加者の評価

※大雪のため、アンケート用紙を準備できず、アンケート調査を実施しなかった。

- (7) 参加者の感想

- 今回の事例は、自分が抱えている問題に近く、たいへん勉強になりました。相談員として忙しい日々ですが、児童、生徒、保護者、教員の方々の少しでもお役に立てるよう真剣に取り組んでいきたいと思えます。
- この6月から2月までの間が、いつも待ち遠しく思っておりました。これからも前向きに具体的に行動していこうと思います。今回初めて事例検討に参加させていただき、得たものは大きかったです。ぜひ、次回の事例検討には、自分の経験を話すことができるようにしていきたいと思えます。いつもいつも子どもを前に、自分の指導や対応の力が及ばない、そんな不甲斐なさを皆さんの情熱が吹き飛ばしてくださいました。
- 最後にふさわしく、心温まる、また実践に結びつくような内容で、ためになりました。いろいろな方の意見を聞くことができたのも、とても刺激になりました。相澤先生はとても謙虚で率直にお話をしてくださり、こちらも優しい気持ちになることができました。尾崎先生はいつもながら、とても公平で穏やかでお話をうかがうだけで幸せでした。来年度もぜひ、発達障害をめぐる、いろいろなことを学ばせていただければと思います。そして、せつかくのこないいい機会をもっと大勢の方々に知ってほしいと思えます。
- 「事例研究」とは、というところから入っていったので、より何のためにどのように、ということが理解できました。事例研究は何度も経験している割に漠然としていたように感じます。今日は違いました。背景にあるものをより深く、いろいろな視点から考えることは重要だなと思いました。見えているものが、すべてではないということをよく理解して相談や指導にいかしていきたいと思えました。来年度もぜひ参加して研修したいと思っています。開催を心より待っています。

- (8) 研修会を知った方法等

※大雪のため、アンケート用紙を準備できず、アンケート調査を実施しなかった。



3. 研修カリキュラム開発の成果

研修カリキュラムの開発を通して、今後の教職員研修の充実・発展につながる貴重な成果を得ることができた。その成果については、以下のとおりである。

(1) 研修カリキュラムの有効性を確認することができた。

本研修は、発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実を図るため、多種多様な教職員が合同で研修を行い、立場を超えての学び合い（交流）を通して、教職員各個人が、発達障害のある児童生徒への指導・支援について、多面的・多角的な視点を身に付け、実践力を高めるとともに、教職員の連携に関するモデルやイメージを明確にもち、組織で対応する力を高めることができるよう支援することをねらいとしており、そのための研修カリキュラムとして、本研修カリキュラムが有効であることを確認することができた。

以下は、実施した全10回の研修会の参加者数及び参加者の評価をまとめたものである。

<参加者数> (※のべ人数)

	参加者数	割合
さわやか相談員	47名	24.7%
正規採用教員	46名	24.2%
臨時的任用教員	33名	17.4%
在学生	22名	11.6%
教育委員会関係	9名	4.7%
その他	33名	17.4%
合計	190名	100.0%

<参加者の評価>

① 研修内容の興味関心

A とても 合っていた	B おおむね 合っていた	C あまり合っ ていなかった	D 合っ ていなかった	無回答	未提出
139名/190名	41名/190名	2名/190名	0名/190名	0名/190名	6名/190名
73.2%	21.6%	1.1%	0.0%	0.0%	3.2%
180名/190名		2名/190名			
94.8%		1.1%			

② 研修内容の理解

A 十分理解 できた	B おおむね 理解できた	C あまり理解 できなかった	D 理解できな かった	無回答	未提出
110名/190名	70名/190名	0名/190名	0名/190名	2名/190名	6名/190名
57.9%	36.8%	0.0%	0.0%	1.1%	3.2%
180名/190名		0名/190名			
94.7%		0.0%			

③ 研修会の満足度

A 十分満足 できた	B おおむね 満足できた	C あまり満足 できなかった	D 満足できな かった	無回答	未提出
138名/190名	42名/190名	0名/190名	0名/190名	1名/190名	6名/190名
72.6%	22.1%	0.0%	0.0%	0.5%	3.2%
180名/190名		0名/190名			
94.7%		0.0%			

「研修内容の興味関心」「研修内容の理解」「研修会の満足度」のいずれにおいても、「A」または「B」と評価した者の割合が94.0%を超えており、本研修カリキュラムが教職員のニーズに応じたものであるとともに、実践力の向上や組織力向上の支援に有効であると判断することができる。このことは、毎回の参加者の感想からも判断することができる。

なお、①、②、③において未提出6名となっているのは、第10回研修会が大雪の日の実施であったため、アンケート調査を実施できなかったことによる。

(2) 学校教育における現代的課題に関する学校現場の教職員の課題意識が明確となった。

平成24年度に実施した10回の研修会における参加者の評価及び感想等から、学校現場の教職員の課題意識は、学校教育における現代的課題のうち、特に発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実にあることが明確となった。

このことをふまえ、平成25年度では、テーマを「発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実」に特化し、その実現に向けた包括的かつ系統的な研修会を実施した。その中で、「教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル」の参加者数が最も多く、研修会の感想からもコミュニケーションスキル等の技能を含めた実践力を高めることに対する教職員の強い課題意識を確認することができた。

今後、二次障害としての不登校やいじめなどを未然に防止するためには、児童生徒は勿論、保護者とのかかわり方のスキルアップなどが重要となってくることから、コミュニケーションスキル等の技能を含めた実践力を高める研修の充実を図っていきたい。

(3) 多種多様な教職員が合同で研修を行うことの価値が明確となった。

平成25年度に実施した研修会に参加した教職員の内訳をみると、さわやか相談員が47名で最も多く、次いで、46名の正規採用教員、33名の臨時的任用教員となっている。

本研修会は全10回実施したが、各回の後半では、必ず演習として3～4人程度のグループで協議を行った。座席も自由なため、グループのメンバーも固定されず、さわやか相談員や正規教職員、臨時的任用教員、学生などが混在するグループで、立場や学校、学校種を超えて、発達障害に関するさまざまな課題について話し合う様子がみられた。そのため、多面的・多角的な視点を身に付け、実践力を高めるとともに、教職員の連携に関するモデルやイメージをもち、組織で対応する力を高めるなど、多種多様な教職員が合同で行うことの価値が明確となった。

(4) 教職員の研修環境を整備することができた。

平成25年度研修会の実施にあたり、会場を全10回のうち7回を交通の便のよい「大宮ソニックシティカレッジ」としたり、さいたま市立小・中・特別支援学校全校にポスターを配付するなど広報活動を積極的に進めたりした。そのため、正規採用教員は勿論、臨時的任用教員やさわやか相談員などの非正規採用教職員が多く参加した。このことにより、正規の教職員研修、平日夜間の「『教師力』パワーアップ講座」に、休日の研修の場としての「教員キャリアアップ・サポートセミナー」を加えた、さいたま市の教職員の自主的・自発的な研修の場の拡大・充実が図られてきたと考える。

今後、これらの研修の相互の関連やそれぞれの位置付けを明確にし、教職員研修を立体的に組み立て、教職員の高度専門職にふさわしい生涯職能成長をサポートするための研修環境の整備をさらに進めていきたい。

Ⅲ 連携による研修についての考察

1. 連携を推進・維持するための要点

連携を推進・維持するためには、組織づくりと課題意識の共有が重要である。

本プログラムでは、既存の組織、さいたま教育コラボレーション推進委員会教員研修専門部会を活用し、研修カリキュラムの開発を行った。教員研修専門部会は、教育委員会と大学が連携・協働してさいたま市の教員研修の充実を図ることを目的としており、研修カリキュラムの開発は、部会の目的そのものである。また、学校教育部長をはじめ教育委員会の幹部、小・中学校の校長会長及び教育学部長をはじめ大学の関係委員会の委員長等で構成されるさいたま教育コラボレーション推進委員会（年2回の開催）において、教育委員会、学校、大学の三者間で教員研修に関する課題意識の共有化が図られている。このような土壌を生かし、本プログラムにおいて、円滑に研修カリキュラムを開発することができた。

また、教員研修に関する課題意識の共有化を図る具体的な取組として、臨時的任用教員を対象とした研修会や、市立学校の全ての校長が出席して開催される研究協議会において、本プログラムの説明を行い、周知を図った。

なお、本研修については、今後も継続して実施し、充実・発展を図っていく。

2. 連携により得られる利点

(1) 大学にとっての利点

地域社会の活性化と発展に貢献する重要な機会であることは勿論、教員養成の充実につながる効果を得ることができる貴重な機会となる。研修を行う教員にとって、研修会に参加した教職員との交流は、学校の実践や課題、教職員個人が抱える課題や悩み等に直接触れることができる貴重な機会である。このような機会を通して学校現場や教職員の実態等の理解を深めることで、教員の専門性がさらに高まり、教員養成の充実へとつながっていく。また、教員を目指す学生にとって、現職の教職員との交流は、教職に対する理解を深めるとともに、教員としての資質能力を高める貴重な機会である。研修の中で、様々な現代的教育課題解決の可能性や方向性が具体的に示されるため、教職に対する不安や緊張の軽減と教員志望への動機づけが高まる効果が期待される。このような研修会への参加を学生に促し、多様な教員養成プログラムの一つとして活用することができる。

(2) 教育委員会にとっての利点

研修内容及び研修環境の充実を図ることができる。教育委員会や学校のニーズ、学校の課題等を踏まえた専門的かつ高度な内容の研修を教職員へ提供するとともに、教職員の自主的・自発的な研修の場を充実・整備することができる。教職員の自主的・自発的な研修の場を充実・整備し、正規の教職員研修と併せて研修を立体的に組み立てていくことで、教職員の高度専門職にふさわしい生涯職能成長をサポートするための研修環境を整備することができる。

3. 今後の課題

(1) 参加者の拡大

全10回の研修会に参加した教職員の人数は、のべ190名となり、平成24年度の106名と比較すると大きく増大した。ただし、同一人物が繰り返し参加している状況がみられるため、多くの教職員のキャリアアップのためには参加者の拡大をさらに図っていく必要がある。各学校への開催案内の送付は勿論、平成25年度に参加人数の多かったさわやか相談員や学生等への積極的な広報にも努めていく。

(2) 研修カリキュラムの改善

「Ⅱ 開発の実際とその成果」の「3 研修カリキュラム開発の成果」において、本研修カリキュラムの有効性を確認することができたことと述べた。本研修カリキュラムは、「発達障害のある児童生徒への指導・支援の充実」に特化したテーマを設定しており、教職員が学校教育における現代的課題に関する多くの知識を得ることができるという点においては十分であったが、教職員のスキルアップを図り、実践力を高めるという点においては課題が残った。平成26年度は、コミュニケーションスキル等の技能を含めた実践力を高めることができるような内容にするなど、より具体的かつ実践的なものへと改善し、充実を図っていく。

IV その他

「キーワード」 教職員のキャリアアップ、現代的課題への対応、非正規採用教職員、休日の研修会、発達障害、特別支援教育、関係づくり

「人数規模」 D. 51名以上 (補足事項 10回の研修で延べ190名)

「研修日数(回数)」 C. 4～10日(4～10回)

(補足事項 6・9月に各2回ずつ、7・10・11・12・1・2月に各1回ずつの合計10回)

【問い合わせ先】

国立大学法人 埼玉大学

教育学部

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

TEL 048-858-3144

さいたま市教育委員会

さいたま市立教育研究所

〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町6-13-15

TEL 048-838-0781